

第3学年 音楽科学習指導案

- 1 題材 「せんりつのとくちょうをかんじとろう」
- 2 教材 「白鳥」(作曲 サン・サーンス「動物の謝肉祭」より)
「ふじ山」(文部省唱歌 作詞 巖谷小波)
「メリーさんの羊」(アメリカ伝統曲)

3 題材設定の趣旨

- 本題材は、曲想を決定付けている重要な要素の1つである「旋律」に着目し、その特徴を感じ取ったり、それによって生まれる曲想を捉えたりする学習を通して、表現や鑑賞の活動を関連させながら指導を進めていく。低学年では、旋律から様子を思いうかべて聴いたり、歌ったり、演奏したりしてきたが、中学年では、より具体的に旋律の音の動きに注目して、その特徴を感じ取って表現の工夫に生かす学習へとつながっていく。

本題材で取り組む教材「白鳥」は、サン・サーンス作曲の組曲「動物の謝肉祭」の中の一曲である。チェロの柔らかく温かい音色やなめらかな旋律は、美しい白鳥が優雅に湖面を泳ぐ姿を表現し、主旋律のなめらかな上行の旋律がより美しさや優雅さを引き立て、白鳥の泳ぐ姿のイメージを膨らませている。一方、16分音符でなめらかに繰り返される美しいピアノ伴奏の音色や旋律は、静かな湖面の波立つ様子等を表現し、白鳥の美しさをより一層引き立てている。また、旋律の反復や変化などの音楽の仕組みにも気付かせることのできる教材である。

教材「ふじ山」は、3年生の歌唱共通教材の一つで、雄大な富士山の姿がドからオクターブ上のドまでの広がりのある旋律で表現されており、歌詞の表す情景と旋律の動きとが深く関連している。この曲は4分の4拍子16小節の楽譜で示されており、音の高さは全体的にだんだん高くなって盛り上がりを見せ、最後のフレーズ13～16小節の「富士は日本一の山」の歌詞のところでの盛り上がりは最高潮となる。そこへ向かう旋律は上行で、だんだん気持ちを膨らませて一番大きく歌うところへと向かう強弱の工夫もできる。曲想を感じ取って伸びやかに歌唱するのに最適な教材であるといえる。

教材「メリーさんの羊」は、アメリカ伝統曲で、童謡として世界中で親しまれている。4分の2拍子、8小節の楽曲で、原曲はヘ長調だが、ハ長調やト長調など他の調で演奏されたり、歌詞を付けて歌われたりしている。児童は1学期からソプラノリコーダーの演奏に取り組み、今までにソ、ラ、シ、ド、レの5音以内で構成された曲を学習している。この楽曲をト長調にすると、既習のソ、ラ、シ、レの4音構成なので、階名唱や、ソプラノリコーダーの演奏がしやすい教材である。旋律の動きは主に上行、下行になっており、鑑賞の「白鳥」や歌唱の「ふじ山」の特徴と関連している。また、4小節ずつの2フレーズ構成で、フレーズのはじめ(1～2小節と、5～6小節)が、同じ旋律の繰り返しになっており、反復の構造も分かりやすい教材である。

これらの教材で学習した旋律や反復などの音楽を形づくっている要素を生かして、最後に音楽づくりの学習へとつなげていく題材構成にしている。

- 本学級の児童は、授業の始めに歌集などを用いて、学級の児童が順番に歌いたい歌をリクエストしてみんなで歌う「リクエストタイム」を楽しみにしており、日頃から歌に親しんでいる。ソプラノリコーダーの演奏では、演奏意欲は高いが、個人差がみられるので、児童にとって親しみがあり、演奏がしやすい曲に取り組んでいる。鑑賞においては、じっくりと自分のイメージをもって聴き取ることにはできるが、音楽を特徴付けている要素や音楽の仕組みと関連させて聴き取り感じ取るところまでには至っていない。音楽づくりにおいては、1学期に即興的なリズム創作は

しているが、「音楽の仕組み」を生かした音楽づくりはまだ学習していない。

授業の事前アンケートにおいて、音楽の学習が「好き」と答えているのは、70.6%、「どちらでもない」が、20.5%、「きらい」が、8.9%である。「好き」の理由は、「歌うと気持ちいいから」「みんなで声をそろえて歌うことが楽しいから」「リコーダーをふくのが楽しいから」などのように、表現する活動の楽しさを味わったことによる理由が多かった。「きらい」の理由には、「歌を間違えた時、友だちに笑われたから」のように、友達との関わり方が要因となっているものもあった。

音楽科の歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の4つの活動で好きな活動についてのアンケートでは、述べ人数で、楽器の演奏が34人中28人と最も多く、次に歌唱が22人、鑑賞が17人、音楽づくりが16人の順になっている。歌唱や器楽に比べて鑑賞や音楽づくりがやや少ないが、興味のある児童が約半数いる。歌唱や器楽の演奏などの際に気を付けていることについてのアンケートでは、約半数の児童が「ましがえなくて正しく演奏すること」や「きれいな声や音色で」と答えており、「曲に合わせて強弱や速さなどを工夫して」と答えたのが32%、「曲のようすを思いうかべながら」は15%と少ない。

- 本題材は、学習指導要領(3・4年)の「A表現」歌唱の指導事項イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」、器楽の指導事項イ「曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること」、音楽づくりの指導事項イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること」、鑑賞の指導事項イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと」を指導のねらいとして、〔共通事項〕をよりどころとして、表現と鑑賞の関連を図りながら指導を進めていく。

指導に当たっては、まず鑑賞の活動で、「白鳥」のチェロとピアノのそれぞれの音色や旋律の特徴と反復を聴き取らせ、静かに波打つ湖面を優雅に泳ぐ白鳥の様子と関連させながら、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取らせる。特に、白鳥の美しさや動きを生かして表現している上行の旋律と曲の盛り上がりとの関連を感じ取らせたい。

次に、表現領域の歌唱の活動では、鑑賞の活動で感受の手掛かりとなった音楽を形づくっている要素の中の旋律と歌詞から、曲への思いと、どのような表現をしていくのか意図をもたせて、強弱などの表現の工夫へとつなげたい。

そして、器楽の活動「メリーさんの羊」においては、鑑賞曲「白鳥」の曲想を決定付けていた要素である旋律と、音楽の仕組みの反復という二つの〔共通事項〕をよりどころとして、歌唱の活動で表現の工夫の手掛かりとなった旋律を、ソプラノリコーダーの演奏の工夫に生かし、そのよさや面白さなどを味わわせていく。

最後に、これらの活動をつないできた〔共通事項〕の中から、この題材の全ての活動で共通して音楽を特徴付けている要素の旋律と、鑑賞で聴き取り、ソプラノリコーダーの演奏で感じ取った音楽の仕組みの反復を生かして、音楽づくりを行う。

これらの活動において、思考・判断やその根拠を明確にして思いや意図をもたせる手立てとして、〔共通事項〕カードの作成・提示、発問や指示、ワークシートなどの工夫を行い、それらの活動の中にペアやグループの活動なども取り入れたい。

ペアやグループの活動においては、お互いの表現を認め合う雰囲気の中で交流することにより、音楽のよさや面白さなどの味わいを深めさせ、音楽表現を創意工夫する楽しさも味わわせたい。

本題材の中で〔共通事項〕をよりどころとして、表現と鑑賞の関連を図り、鑑賞、歌唱、器楽、音楽づくりの各活動をつなぐ指導の工夫をすることで、各活動の意欲を更に高めたい。

また、〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素について、日頃から親しめるような環境づくりにも取り組みたい。

4 題材の指導目標

- 旋律の特徴を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いや意図をもって表現したりすることができるようにする。
- 旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現の仕方を工夫しながら演奏することができるようにする。

5 題材の評価規準

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
<p>①「白鳥」の旋律、音色、反復などの関わり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 【関一①鑑賞】</p> <p>②「ふじ山」の歌詞の内容、曲想に興味・関心をもって進んで歌おうとしている。 【関一②歌唱】</p> <p>③「メリーさんの羊」の曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 【関一③器楽】</p> <p>④反復を生かし、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 【関一④音楽づくり】</p>	<p>①「ふじ山」の旋律の特徴を聴き取り、それらの働き生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【創一①歌唱】</p> <p>②「メリーさんの羊」の旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 【創一②器楽】</p> <p>③旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、反復を生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 【創一③音楽づくり】</p>	<p>①「ふじ山」の歌詞の内容、曲想にふさわしい表現で歌っている。 【技一①歌唱】</p> <p>②「メリーさんの羊」の曲想にふさわしい表現でソプラノリコーダーを演奏している。 【技一②器楽】</p> <p>③反復を生かし、音を音楽に構成している。 【技一③音楽づくり】</p>	<p>①「白鳥」の旋律、音色、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いている。 【鑑一①】</p>

6 本題材で位置付ける〔共通事項〕 (ア) 音楽を特徴付けている要素, (イ) 音楽の仕組み

〔共通事項〕		本題材における具体の姿
(ア)	旋律	<p>「白鳥」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白鳥の様子を表すなだらかな上行、下行の主旋律、湖面の様子を表す16分音符の分散和音で流れるように繰り返される伴奏の旋律の特徴を聴き取る。 <p>「ふじ山」</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞「ふじは日本一の山」に向かう上行の旋律と最も曲が盛り上がる場所の関連に気付き、表現の工夫に生かす。 「メリーさんの羊」 ・上行、下行の旋律、付点のリズムが入った旋律の特徴に気付く。 「音楽づくり」 ・「白鳥」「ふじ山」「メリーさんの羊」で学習した旋律の特徴(上行、下行、付点のリズムなど)を生かして、ソ・ラ・シ・ド・レの5音から成る旋律をつくる。
	音色	<p>「白鳥」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優雅な白鳥を表すチェロの響きのある柔らかく優しい音色、湖の波打つ湖面の様子を表すピアノの音色の違いに気付き、それぞれの音色のよさや美しさなどを感じながら聴く。
	強弱	<p>「ふじ山」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞「ふじは日本一の山」に向かう上行の旋律の特徴や曲の盛り上がり気付き、強弱と関連させて表現の工夫に生かす。
(イ)	反復	<p>「白鳥」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの16分音符で刻まれ流れるように繰り返される伴奏の反復を聴き取る。 「メリーさんの羊」 ・1～2小節と5～6小節が同じ旋律の反復になっていることを聴き取り、反復のよさや面白さなどを感じ取って表現の工夫に生かす。 「音楽づくり」 ・「白鳥」や「メリーさんの羊」で学習した反復を、音の構成に生かして創作する。

7 題材の指導計画と評価規準（全6時間）

次	学習内容及び学習活動	時間	教師の指導・支援	評価規準と評価方法
1	1 「白鳥」の主旋律と伴奏の旋律の動きや音色を手掛かりに曲想を感じ取り、楽曲の構造(反復)に気を付けて聴く。	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽曲との出会いの際、クイズ形式で、何の生き物を表しているか考えさせ、なぜそう思ったのか話し合わせることで、「白鳥」という楽曲を形づくっている要素である、旋律、音色、反復に気付かせ、〔共通事項〕カードを提示する。 ○ 主旋律と伴奏の動きを図に表したものをを見て、主旋律を口ずさんだり、動きを手で表現したりしながら旋律の特徴や反復を聴き取らせ、そのよさや面白さ、美しさを感じ取らせる。 ○ 主旋律のチェロとバイオリンの音色の聴き比べをさせ、チェロの柔らかく 	<ul style="list-style-type: none"> ・「白鳥」の旋律、音色、反復などの関わり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。 (関一①)【行動の観察】 ・「白鳥」の旋律、音色、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いている。 (鑑一①) <p>【ワークシート・発言の内容】</p>

			優しい響きと、ゆったりとしたなだらかな旋律の動きとの関わり合いを感じ取らせ、白鳥の様子を豊かに想像させる。	
2	1 「ふじ山」の歌詞の内容を捉え、情景や心情を感じて歌う。	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふじ山」の縦書きにした歌詞を見ながら音読させ、歌詞の表す情景や気持ちなどを読み取らせる。その際、ほとんどが富士山の情景を表した歌詞の中に、最後の「ふじは 日本一の山」というところだけ、心情が表現されていることに気付かせる。 ○ 富士山の写真(映像)や絵を使って歌詞の内容を視覚的にも捉えさせる。 ○ 旋律の音高に合わせて手を動かしながら歌わせ、旋律の特徴をつかませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふじ山」の歌詞の内容、曲想に興味・関心をもって進んで歌おうとしている。 (関一②) 【行動の観察】
	2 「ふじ山」の歌詞の内容と旋律の動きとを関連させ、思いや意図をもって強弱などの工夫をしながら歌う。	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歌詞の内容や旋律の特徴を基に、表現の工夫をさせる。 ○ ワークシートに、①どこを、②どのように、③なぜ工夫したいのかについて書かせ、表現の工夫についての思いや意図をもたせる。 ○ 歌い方の工夫についてペアで相談し、グループで話し合い、歌い試しながら工夫する活動を取り入れ、友達と関わりながら表現の工夫をする楽しさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふじ山」の旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想にふさわしい表現などを工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 (創一①) 【ワークシート・行動の観察】 ・「ふじ山」の歌詞の内容、曲想にふさわしい表現で歌っている。 (技一①) 【演奏の聴取】
3	1 「メリーさんの羊」の旋律、反復を聴き取り、そのよさや面白さなどを感じ取って、思いや意図をもってソプラノリコーダーで演奏する。	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1小節ごとカードにした楽譜をばらばらに提示し、児童に順番を考えさせて、なぜその順番にしたのか理由を言わせることで、付点のリズムの入った旋律、上行、下行の旋律などの特徴や反復に気付かせる。 ○ 「メリーさんの羊」の拡大譜を提示し、反復について楽譜で確認させ、鑑賞「白鳥」でも反復について学習した 	<ul style="list-style-type: none"> ・「メリーさんの羊」の曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に進んで取り組もうとしている。 (関一③) 【行動の観察】 ・「メリーさんの羊」の旋律、反復を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、曲想に

			ことを思い出させる。	ふさわしい表現などを工夫し、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもって いる。 (創一②) 【ワークシート・行動の観察】 ・「メリーさんの羊」の曲想にふさわしい表現でソプラノリコーダーを演奏している。 (技一②)【演奏の聴取】
4	1 鑑賞や歌唱，器楽で学習した旋律の特徴や反復を生かして，「音楽づくり」をする。	5	○ 旋律をつくる際の音をソ，ラ，シ，ド，レの5音構成にし，ソプラノリコーダーで音を確かめながらつくることができるようにする。 ○ 「メリーさんの羊」をモデルにして，4分の2拍子8小節，反復を入れた構成にし，グループで話し合いながら工夫をさせる。	・反復を生かし，音を音楽に構成することに興味・関心をもち，思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。 (関一④)【行動の観察】
	2 グループごとにつくった音楽のミニ発表会をする。	6	○ どこに，どのような思いや意図をもってつくったのか，ワークシートに書かせる。 ○ 発表を聴き合い，①どこが，②どのようによかったのかを発表させて，その友達が③なぜよかったと感じたと思うか更に問い掛けることで，〔共通事項〕の旋律の特徴と関連させながらよさを共有させる。	・旋律，反復を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら，反復を生かし，音を音楽に構成するための試行錯誤をして，どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。 (創一③) 【ワークシート・行動の観察】 ・反復を生かし，音を音楽に構成している。 (技一③) 【ワークシート】

8 本時の学習 (3/6)

(1) 指導目標

- 「ふじ山」の旋律の特徴を聴き取り，友達と試行錯誤しながら歌詞の表す情景や気持ちを感じ取って表現の工夫をし，どのように歌うかについて思いや意図をもつことができるようにする。
- 「ふじ山」の歌詞の内容，曲想にふさわしい表現で歌うことができるようにする。

(2) 指導過程

過程	学習活動	教師の指導・支援 ◆形成的評価とそれに基づく指導・支援	評価規準と評価方法
導入	<p>1 音遊びをしたり，既習曲を歌ったりする。</p> <p>2 本時のめあての確認をする。</p>	<p>○ 音遊びでは，リズム模倣やリズム即興演奏，簡単な旋律模唱などをさせ，本題材に出てくるリズムや旋律などに親しませる。</p> <p>○ 既習曲は，ピアノの周りに，お互いの顔の表情が見えるように並んで歌わせ，楽しく歌う雰囲気づくりをする。</p> <p>○ ふじ山の縦書きの歌詞や情景画，映像などを見せ，前時の学習を想起させる。</p>	
<p>友だちと協力して，「日本一のふじ山」を表す歌い方をくふうしよう。</p>			
展開	<p>3 「ふじ山」の表現の工夫をする。</p> <p>(1) 「ふじ山」を歌う。</p> <p>(2) 表現の工夫について考える。</p> <p>4 グループで話し合い，「日本一のふじ山」を表すのにふさわしい表現を見つける。</p>	<p>○ 旋律の音高に合わせて手を動かしながら歌わせ，旋律の動きの特徴を思い出させる。</p> <p>○ ワークシートの楽譜に，①どこを，②どのように工夫したいかを具体的に書かせる。</p> <p>○ どのように工夫したいのかのヒントとなる〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素のカードを提示する。</p> <p>◆ 全く書けていない児童には，まず，どこを工夫したいのか，ワークシートの歌詞や楽譜を指で示させ，①②の順に考えさせる。</p> <p>○ 活動の進み具合を見て，ペアで相談させ，考えを確かめたり，広げたり，深めたりさせる。</p> <p>○ ワークシートの楽譜に①②を書き込んだ工夫マップを基に歌い試しながら話し合わせる。</p> <p>◆ 工夫したいところがうまく表現できていないグループには，旋律の音高に</p>	<p>・「ふじ山」の歌詞の内容，曲想にふさわしい表現で歌っている。(技一①)</p> <p style="text-align: right;">【行動の観察】</p> <p>おおむね満足(B)と判断する目安(判断基準)</p>

<p>展 開</p>	<p>5 いくつかのグループの発表を聴き、交流する。</p> <p>6 表現の工夫を振り返る。</p>	<p>合わせて手を動かしながら旋律の動きに気を付けて歌って試させたり、声の出し方についてアドバイスをしたりする。</p> <p>○ どこをどのように工夫したのか説明してから発表させる。</p> <p>○ グループの発表を聴いた感想を発表させる際には、工夫の基になった旋律や歌詞などの音楽の要素に関連して言うことができた児童をほめ、よさを共有させる。</p> <p>○ できた工夫について振り返り、③なぞそのように工夫したのか「せんりつ」という言葉を使って、ワークシートに書かせる。</p> <p>◆ 書けない児童には、工夫の手掛かりになった旋律の特徴が表れているところを、ワークシートの【工夫マップ】の楽譜を使って指し示しながら思い出させる。</p>	<p>「ふじは日本一の山」(13～16小節)のところを強く表現することを意識して歌うことができている。</p> <p>※グループ活動の観察で、チェックリストを基に、現時点で評価が可能な児童については、評価しておく。</p> <p>※音楽表現の技能の評価については、発表で、グループ活動の際評価していない残りの児童を評価する。</p> <p>・「ふじ山」の旋律の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、歌詞の内容、曲想にふさわしい表現などを工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(創一①)</p> <p>【ワークシート・行動の観察】</p> <p>※ワークシートの記述は、事後、行動の観察と合わせて補完的に評価する。</p> <p>おおむね満足(B)と判断する目安(判断基準)</p> <p>「ふじは日本一の山」(13～16小節)のところを強く表現する工夫について、グループ活動で発言したり、思いや意図をワークシートに書いたりすることができている。</p>
<p>ま と め</p>	<p>7 表現の工夫についてまとめ、全員で「ふじ山」を斉唱する。</p> <p>8 次時の学習を知る。</p>	<p>○ みんなで共有した表現の工夫を生かして、それぞれの思いや意図をもって斉唱させる。</p> <p>○ 次時は、ソプラノリコーダーの演奏で表現の工夫をすることを知らせる。</p>	